

## 論文審査の結果の要旨

|   |                                 |    |       |
|---|---------------------------------|----|-------|
| 報告番号  | 博(医歯薬)甲第 842 号                  | 氏名 | 花田 匡利 |
| 学位審査委員  | 主査 東 登志夫<br>副査 尾崎 誠<br>副査 柳原 克紀 |    |       |
| 論文審査の結果の要旨  |                                 |    |       |
| <p>1 研究目的の評価<br/>本研究は、間質性肺疾患に対するステロイド投与の有無および投与量が筋力に及ぼす影響や呼吸困難、運動耐容能、健康関連 QOL との関連性を検討したもので、目的は十分に妥当である。</p>  |                                 |    |       |
| <p>2 研究手法に関する評価<br/>間質性肺疾患患者 98 例を対象に、1 ヶ月以上ステロイド治療を受けているステロイド投与群 47 例とコントロール群 51 例に大別し、呼吸困難の重症度を一致させた上で筋力や運動耐容能に及ぼす影響について統計学的に検討したもので研究手法も妥当である。</p>   |                                 |    |       |
| <p>3 解析・考察の評価<br/>上記手法で解析した結果、ステロイド投与群では有意に筋力の低下を認め、投与量が多いほど筋力に及ぼす影響が強いことが明らかとなった。また、ステロイド投与群では、総投与量や投与期間は筋力低下と負の相関を呈していた。したがって、長期のステロイド投与を必要とする間質性肺疾患では、筋障害への影響を抑えるためにステロイドの一日量だけではなく総投与量へも注意が必要であることが示唆された。間質性肺疾患に対するステロイド剤投与の影響を明らかにする研究として今後の発展が大いに期待される。</p> |                                 |    |       |
| <p>以上のように、本論文は間質性肺疾患の臨床に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>   |                                 |    |       |